

北地区の自然と歴史が学べる4講座を開講！



①



②



④



③



第2号

発行
生駒市図書館
市史編さん係

いこま歴史キャンパス～北地区編～ カリキュラム

R4/10/30(日)

- ①講座「近世 高山の魅力」
元天理大学文学部教授 谷山正道 氏
- ②フィールドワーク
「北生駒の植物-見どころと探し方」
奈良教育大学特任教授 松井淳 氏

R4/11/13(日)

- ③講座「戦国武将鷹山弘頼の活躍」
天理大学文学部准教授 天野忠幸 氏
- 講座「公慶と東大寺再建」
天理大学文学部教授 幡鎌一弘 氏

R4/11/27(日)

- ④フィールドワーク「鷹山氏ゆかりの地をめぐる」
近畿大学文学部准教授 新谷和之 氏

いこま歴史キャンパス初開催

令和4年10月末～11月下旬にかけて、「いこま歴史キャンパス～北地区編～」を初開催しました。講座やフィールドワークを通じて、北地区の歴史や自然を学ぶこの企画。全4回を通して延べ166人が参加しました。

①③では講師1人につき60～75分の講座を行い、交流会として参加者からの質疑応答も実施。講座に絡めた質問だけでなく「市民が誇りを持てるような市史にしてほしい」など、生駒市史への期待の声も寄せられました。また②のフィールドワークではマイクロスコープに乗り、高山方面を散策。草花や城跡など現地を見学しながら講師の説明を聞くことで、より一層理解を深めていただきました。

「いこま歴史キャンパス」は令和5年度に中地区編を開催する予定です。詳細は広報いこまなどでお知らせします。

北倭村・北生駒村・南生駒村だった頃のまちなぎを知ろう！ 生駒市史史料集第1集 近世・近代史料1 近代郷土誌・風俗誌ができました

価格
1,500円
(税込)

B5版
全274
ページ



<掲載史料>

- ・北倭郷土誌資料
- ・北倭村風俗志調
- ・奈良県風俗誌記載事項調
<北生駒村・南生駒村>

下記の施設で5月2日(火)から販売します

市内5図書館・室、市役所生涯学習課
生駒ふるさとミュージアム
(各施設の休館日や閉庁日は除きます)

令和4年度の動き

専門の学識経験者等が参加し、市史編さんの基本的・総合的な事項を協議し意見を述べる「生駒市史編さん委員会」では令和4年度に2回の会議を実施。刊行計画の修正に関する協議や史料集の構成・本編の規格などを決定しました。

分科会の垣根を越えて

5つの分野から成る「生駒市史編さん委員会分科会」では、令和4年度に下記の活動を実施。約1年をかけた宝山寺所蔵史料調査では、近世史分科会と近現代史分科会が合同で調査を行いました。その他、古代史分科会と中世史分科会の合同打合せや、近世史分科会と文化遺産・自然分科会による宝幢寺での合同調査など、分科会の垣根を越えた会議や調査が活発に行われました。

各分科会の活動報告

古代史分科会

市内窯跡の現地踏査や出土遺物の確認調査を行いました。

- 4月 市内窯跡現地踏査
市内出土遺物確認調査
- 12月 古代史・中世史合同打合せ

中世史分科会

2回の会議とフィールドワークを実施。市内神社や墓地の巡検を行いました。

- 9月 第3回中世史分科会
- 12月 古代史・中世史合同打合せ
- 3月 第4回中世史分科会・市内巡検（予定）
- 通年 中世史料調査

近世史分科会

1回の会議と市内所蔵史料の調査や市内寺社での史料調査を実施しました。

- 5月 第2回近世史分科会
- 6・9月 宝幢寺所蔵史料調査
- 7月 石福寺所蔵史料調査
- 9月 北小平尾農家組合所蔵史料調査
- 10月 長楽寺所蔵史料調査
- 11月 市内墓地調査
- 通年 宝山寺所蔵史料調査
生駒市所蔵史料調査

近現代史分科会

市内外に残る生駒市に関する史料調査や市内に残る酒造や市内特産品に関する聞き取り調査を実施しました。

- 4月 近畿日本鉄道所蔵史料調査
- 6月 北地区遺族会所蔵史料調査
茶釜に関する聞き取り調査
大林組所蔵史料調査
- 8月 菊司醸造聞き取り調査
- 1月 生駒市行政史料調査
- 3月 北倭土地改良区所蔵史料調査
- 通年 宝山寺所蔵史料調査
明治～昭和発行新聞記事調査

文化遺産・自然分科会

分科会内で仏像・民俗・建造物などさらに細かく担当に分かれそれぞれ調査を行いました。

- 4月 乙田町民俗調査
- 4・11月 萩の台民俗調査
- 9月 石福寺仏像調査
宝幢寺仏像・石造物調査
- 10・11月 小平尾町民俗調査
- 1月 俵口町民俗調査
- 2月 小明町民俗調査
- 3月 壱分町・小平尾町民俗調査
- 6～3月末 歴史的建造物詳細調査





②



③



④

①講演後の座談会のようなす ②奈良県立橿原考古学研究所企画係長の小栗明彦氏 ③奈良文化財研究所都城発掘調査部長の神野恵氏 ④奈良県内の考古学関連の書籍を並べた出張図書館も実施



①

市史編さんボランティアが活躍しています

約20名のボランティアの皆さんが市史編さん室での史料の整理作業、翻刻作業、講演会でのイベント運営などに取り組んでいます。

Interview : こんな活動、やっています

新聞「大和タイムス」の生駒に関する記事のリストを作っています。生駒町の頃から住み始めて約55年になりますが、それ以前のまちの変遷がわかっておもしろいですね。古い生駒を発見する事は楽しく、先人から受け継ぐ文化も感じられて、感謝の気持ちで活動に取り組んでいます。

松岡 桂子さん



編集後記

翻刻作業や新聞記事の整理をしていると、書き手の人となりや当時の社会情勢・世相などが垣間見えて、その人物像を想像するのが楽しみになっています。先人たちの歴史、文化、記録等を次世代に引き継ぐことが今を生きる私たちの使命。間もなく、史料集第1集が発刊します。どうぞご期待ください。

開催レポート

生駒市史関連講演会 「遺跡は語る 生駒の古代」

とき 令和5年2月19日(日) ところ 図書館市民ホール

講演会「遺跡は語る 生駒の古代」に市内外から約120名の参加者が集まりました。古代史分科会の執筆者3名が講師を務め、最初に吉川真司氏が「生駒古代史の舞台」について講演。小栗明彦氏からは「原始・古代の生駒と暗越街道」と題し、富雄丸山古墳に続く竹林寺古墳の生駒山越ルートや縄文から古墳時代に至る集落の形成などについて、神野恵氏からは「考古資料がたぐ平城京と生駒」と題し、生駒竊跡の操業

と平城京との関わりについてお話いただきました。続いて座談会を開催。自身が関わった市内発掘調査での裏話や、参加者からの質問にもお答えいただき、最後は生駒市史執筆に向けた想いを語っていただきました。参加者からは「身近に遺跡があることがわかった」「古代のヒト・モノの流れが理解できた」といった声が寄せられました。今後さまざまな歴史イベントを行う予定です。詳細は広報いこまちなどでお知らせします。

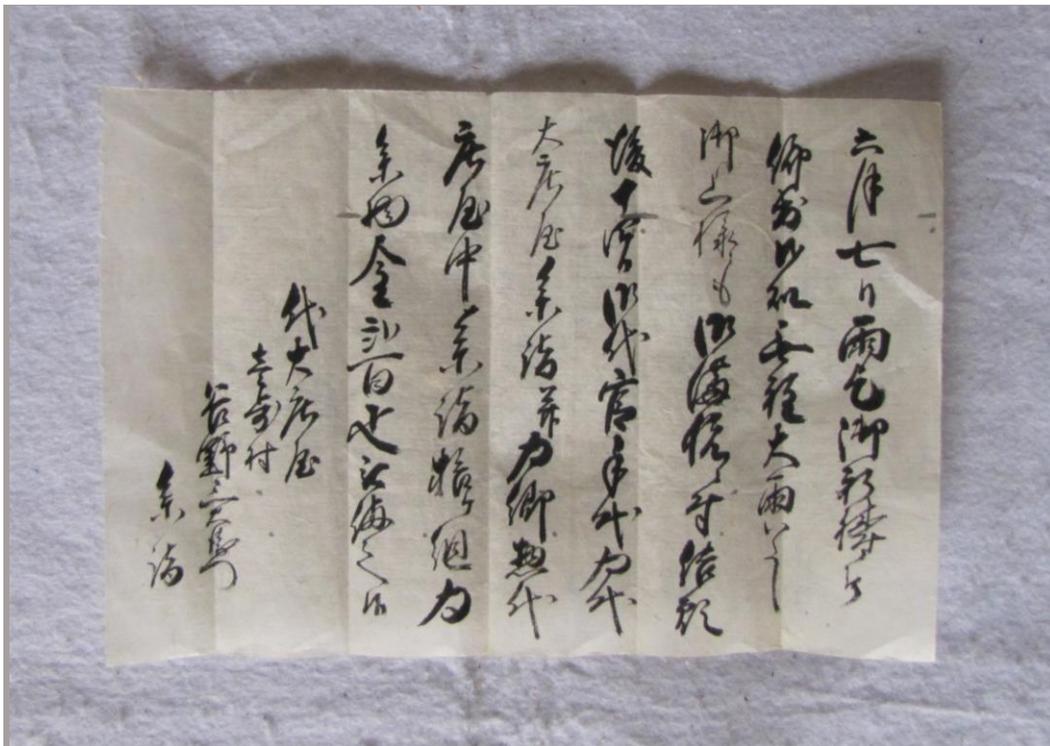
● 史料紹介 ●

藩ぐるみの
雨乞

-宝山寺の文書から-

文：谷山 正道

生駒市史編さん委員

元 天理大学
文学部教授

史料名：『〔雨乞結願により宝山寺へ御礼参詣に付覚〕』（寛政元年）（宝山寺所蔵）

生駒山の中腹にある宝山寺は、江戸時代の前期にあたる延宝6年（1678）に、湛海律師によって中興開山された（かつて大聖無動寺という修験寺院があった場所にあたります）。当寺は「生駒の聖天さん」の名で親しまれており、聖天堂に祀られている大聖歡喜天は、現世利益を願う多くの人々の信仰をあつめてきました。その中心は、大阪の豪商をはじめ、商売繁盛を希求する商人たちであり、その一端は、当寺へ多額の寄付を行った人の住所・氏名・金額がそれぞれ刻まれた参道の石柱からもうかがえます（その額の多さには驚かされます）。「聖天さん」が有名になったために、やや影が薄くなってしまう感があります。が、本堂に祀られている本尊の不動明王も、靈験あらたかな存在として、多くの人々の信仰の対象となっていました。そうした宝山寺に、江戸時

代後期の雨乞祈禱に関する興味深い文書群が残っています。寡雨地域であった大和では、水争いや早魃時に行われた雨乞行事は、村々の風物詩の一つになっていました。雨乞行事は、通常は村や郷のレベルで行われましたが、領主と領民とが一体となって雨乞立願を行うケースも見られました。宝山寺に残っている文政6年（1823）の文書は、まさにそのことを示すもので、大早魃であった当年の5月下旬に、郡山藩からの依頼により雨乞祈禱が行われたことが知られます。雨乞の祈禱料は銀10枚（430匁）が相場であったようですが、この時には、「御上」から銀430匁、領内10組の大庄屋から43匁が醸出されたほか、計609匁4分が寺に納められ、そのうち80匁が祈禱にあたった僧侶らへ「祝儀」として配分されています。寺への納入額は、現在の100万円ほどにあ

たり、高額であったことが知られますが、靈験あらたかなケースも少なからずあったようです。「六月七日雨乞御祈禱被仰出候処、無程大雨いたし御上様も御満悦二付、結願後十四日御代官手代為代大庄屋参詣、并為郷惣代庄屋中参詣」云々と記された、寛政元年（1789）の文書も残っています。郡山藩は、大早魃の年に、大和国内の他の社寺（郡山八幡社・春日大社・菅原天神社・広瀬神社・田尻観音寺など）へも雨乞立願を行っていますが、藩主が帰依していた宝山寺はその代表格といえる存在でした。



写真：宝山寺本堂